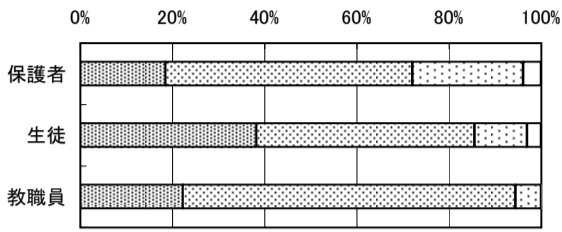


■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

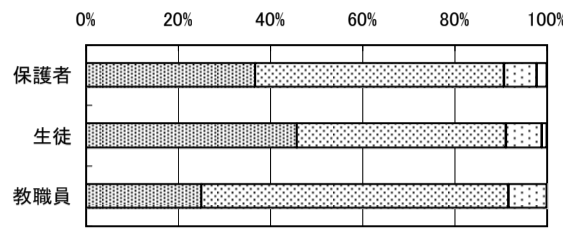
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



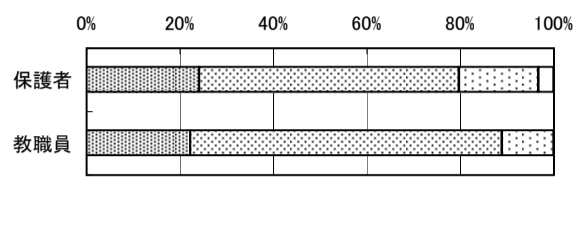
2 意欲的な学校生活

子どもは、充実した学校生活を送っていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

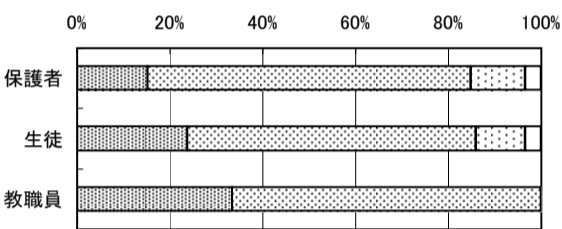


【学校から】(1について)生徒は校訓「藤園の紳士・淑女」について日頃から指導されており理解度は高い。保護者に対しては、学校より、PTA総会、学級懇談会等、機会あるごとに説明し理解を得る必要がある。(2について)意欲的に学校生活を過ごしている生徒が多い。保護者もその様子を理解している。ただ、学校に足の向かない生徒もおり、個々に応じた指導を継続的に行う必要がある。(3について)概ね連携はできているものの、それぞれの校務分掌において学校をリードしていくという自覚には差がある。各自が組織の一員としての意識を高め、より魅力的な藤園中学校を創造していく努力をすべきであるとする。

教科指導

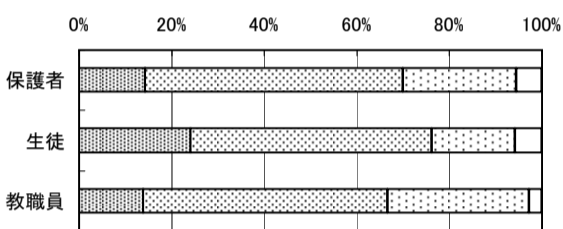
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、丁寧な授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

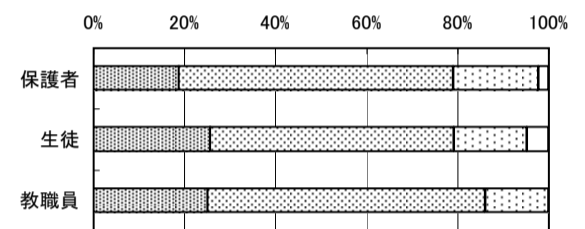
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。



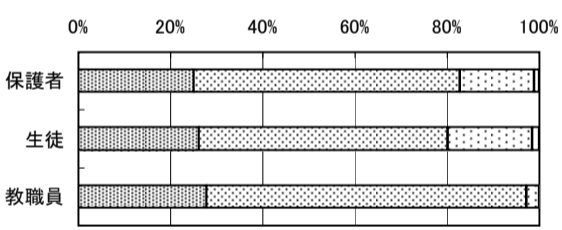
【学校から】授業作りの工夫については、「わかる授業に努めている」と100%の教職員が答えているが、保護者と生徒は80%以上は肯定的ではあるが、三者に意識の差が見られる。授業態度については、保護者と教職員の意識はほぼ一致しているが、生徒はそれより高く評価している。今後、更なる授業の工夫に努め、保護者と連携をはかり生徒の学習意欲の向上に努めていきたい。

【学校から】昨年と比較すると4の解答が半減している。縦割総合(CP)の時間がなくなって2年、「総合」としての意識が低くなったのではないかと。しかし各学年での生徒の取組は積極的であり自己評価も高い。これからも計画的に進めていきたい。

道徳教育 心の教育

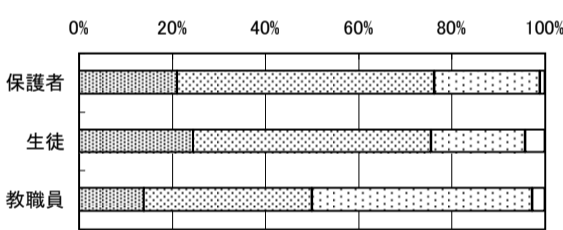
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あらゆる場面においてあいさつがきちんとできていると思いますか。

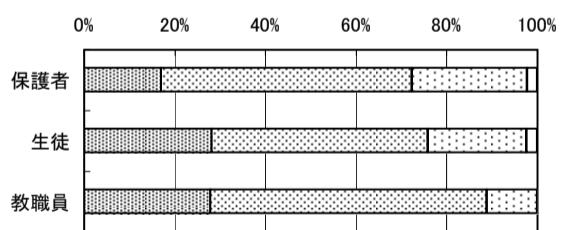


【学校から】挨拶、礼儀の励行の意識において、「ただ挨拶をすればいい」という生徒に対して、「笑顔での気持ちのこもった挨拶」を望む教職員との間に隔たりがあるようだ。来年度は、「挨拶日本一」の目標に恥じないように、更に一人一人の心の教育の充実を図れるような取り組みを行うことで、日頃から気持ちの良い挨拶ができるようになって欲しい。

人権教育

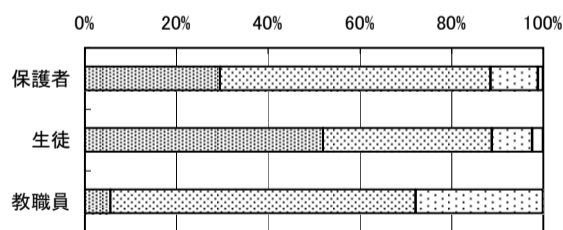
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、わけ隔てなく友だちとなかよくしていると思いますか。

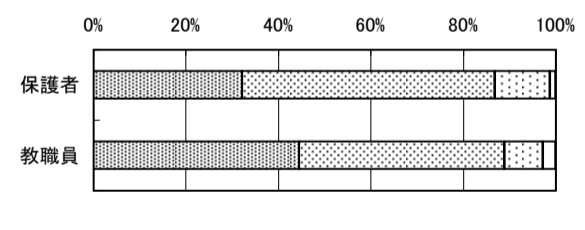


【学校から】「友だちへの思いやり」に関する意識に、生徒と教職員で大きな違いがある。日常的に人を傷つける言葉を使っていたり友だちに対する関心が、一部の仲良しの人達だけに向いて他の人には薄くなっているようなところがあると思う。その点への気付きの違ひからこのような結果が出ているのではないかと。一人一人の生徒の尊重に関しては、教職員は概ね指導・対応が出来ていると思っているが、生徒・保護者にとっては十分ではないという意識が高いことがわかる。生徒や保護者の側に立って、もっと一人一人に気を配り支援していく努力が必要である。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

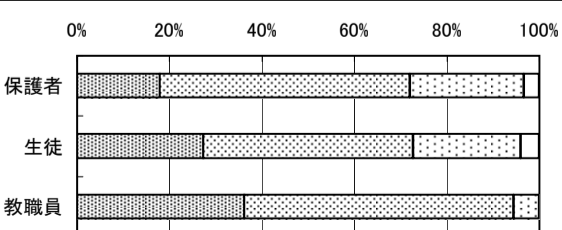


【学校から】全教職員のスキルアップを図ることを目的とした研修の実施や資料の提供を行う。また、ケース会議により情報交換を密に行い、学校・家庭・関係機関が連携して、適切な支援が展開できるように努める。

生徒指導 教育相談

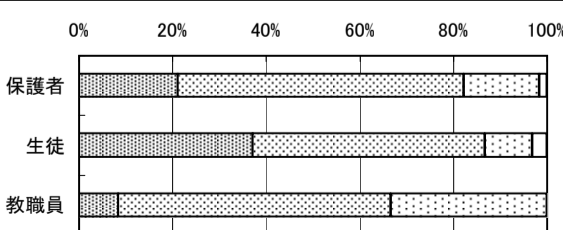
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。



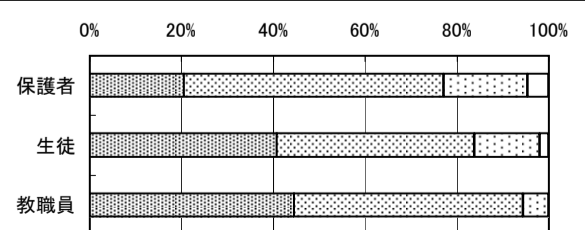
13 規範意識

子どもは、社会や学校における規則やマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

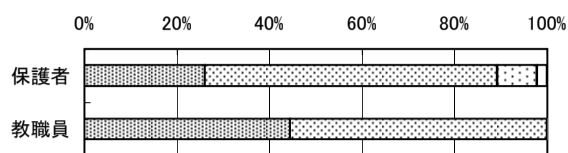


【学校から】生徒理解に関しては、生徒・保護者と職員との意識に差があるため、今後は教育相談の機会をより多く確保し、生徒のよりきめ細かな実態把握に努めたい。規範意識に関する項目については、生徒と職員との意識に大きな差が見られ、また保護者の評価も低い。やはり、職員が一丸となった共通理解・共通実践を行っていくことが大切である。さらに、いじめや問題行動についての項目では、生徒・職員と保護者の評価に大きな差があり、学校での取り組みが伝わっていないと考えられる。学校としては、毎月の「学校生活アンケート」を確実に実施し、生徒の実態把握や問題行動の防止・早期発見に努めていきたい。

## 健康教育 安全

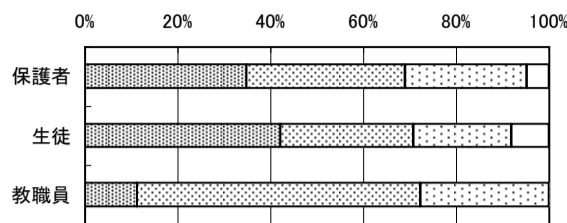
### 15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



### 16 体力向上

子どもは、すすんでスポーツなどをしていると思いますか。

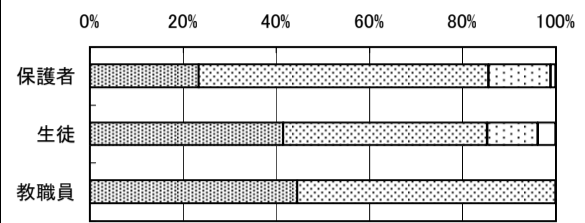


体育だけの運動は週2日であるために、中学生にとっては運動の不足が十分に考えられる。そこで、元気づくりカップを計画、実施した。期待通り、生徒は、朝練習・昼練習と運動を楽しんでいたようにも思う。しかし、この運動も限定的であることから考えると、運動部活動への加入を今後とも、強く推進していく必要が指摘される。今後も、4月の段階で、運動部活動に加入していない生徒に対して、加入を進めていくだけでなく、運動部の見直しもしていくべきではないだろうか。

## 学校行事

### 17 学校行事への参加と工夫

学校では、体育大会や文化・学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

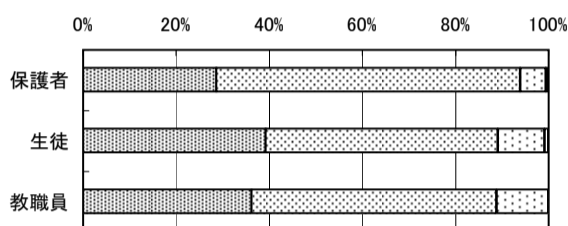


【学校から】どの行事も、入念な計画・指導のもとに実施され、生徒の意欲的に取り組む姿勢が見られた。今後は、各行事の効率化を図り、行事を学力や生活に生かしていけるような取り組みや、保護者への啓発を更に進めていきたい。

## 学校環境

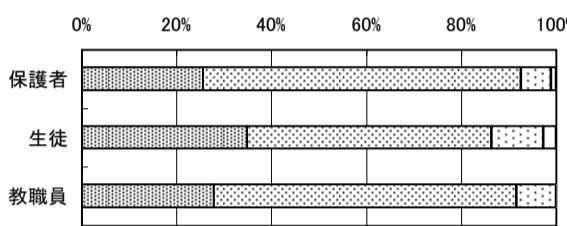
### 18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



### 19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

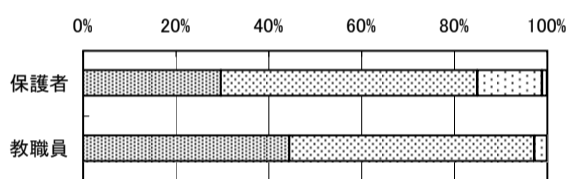


【学校から】花壇の整備では、環境委員会や特別支援学級の生徒が中心に定期的に行っている。耐震工事が行われていたため充実した整備とまではいかなかったが、きれいに整備することができた。しかし、整備に関わっている生徒は興味があるようだが、関わっていない生徒に関しては、あまり感じられないので全校生徒で行うような機会を増やしていきたい。掲示に関しては、どこにどの掲示をするか確認したことで整備されてきたが、生徒がより興味をひくような掲示の仕方を工夫していきたい。安全面に関して、来年度まで校舎の耐震工事が行われる。気をつけて学校生活が行われるように常時確認していきたい。さらに生徒が安全に生活できるように職員全体で注意していく必要がある。

## 情報の公開・発信

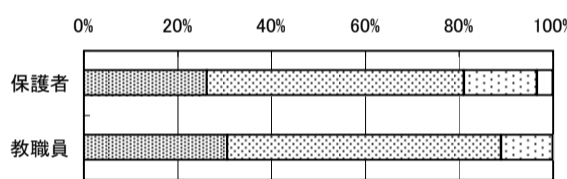
### 20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



### 21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

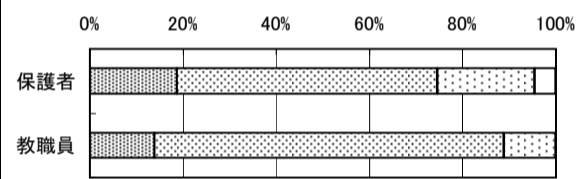


【学校から】(20について) 学校からは、月行事・学級通信等の定期的な便りが全家庭に配布されているが、保護者の手に渡っていないことも多く、連絡が徹底しないことがある。3学期は4月からの「藤園中安心メール」の配信に向けての試行がPTAを中心にされる。この企画を活用して確実に学校からの情報が伝わるようにしたい。(21について) 授業参観と講演会を共催したり、土日に企画したりなど、仕事をもつ保護者の都合を考慮していく必要がある。

## 家庭・地域との連携

### 22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



【学校から】それぞれの役割や連携の重要性を啓発していく必要がある。学校見学、地域人材の活用、地域におけるボランティア活動等を推進していきたい。相談しやすい雰囲気づくりを推進する。

## 来年度の具体的な取り組みについて

- 確かな学力の育成について  
①授業力の向上のため、授業研（全員）の実施と校内研修の充実、及び研究推進校での研修に力を入れる。②新学習指導要領実施に向けて、言語活動の充実と家庭学習の習慣化の徹底に努める。③P D C Aサイクルの確実な実施と学力の正確な実態把握による個に応じた指導の充実を図る。④特別支援教育の推進を図る。
- 豊かな心の育成について  
①道徳の時間の充実を図るとともにボランティア活動や体験活動を通して自尊感情を高める。②人権教育の日常化に努める。③家庭と連携して「早寝、早起き、朝ごはん」の実践と携帯電話等のルールづくりを進める。④全職員の共通理解のもと「心の居場所」としての学校づくりに努めるとともに積極的な生徒指導を実践する。⑤気持ちを集中しての無言清掃の徹底を図る。⑥学校版環境ISOを更に進める。⑦「挨拶日本一」活動を継続して行う。⑧健康教育の推進を図る。⑨魅力ある部活動を実践する。⑩幼・保、小、中の連携した取組を更に進める。
- 家庭・地域との連携について  
①開かれた学校づくりを目指し、積極的な情報発信や地域との交流に取り組み、地域とともに歩む学校づくりに努める。  
②生徒の安全・安心を守るため、地域の諸団体や関係機関との連携を更に深める。

## 学校関係者評価

- 「挨拶日本一運動」、「花畑公園清掃奉仕活動」はよく取り組まれているが、地域の中でも生徒が自主的に挨拶や奉仕活動ができるようになればもっとよい。そのためにも挨拶の意義やボランティアの意義について生徒に考えさせることが重要である。また、挨拶は家庭の躰によるところが大きいので、家庭への協力を呼びかける必要もある。PTA活動としての取り組みも考えられる。
- 「早寝早起き朝ごはん」については、生活アンケートの結果を家庭へ発信することで家庭での意識化を高めることができる。
- 学校のホームページを定期的に更新することが必要である。学校の動きが分かりやすい。
- 家庭学習の習慣化の徹底には家庭の協力が不可欠である。そのためにも、学校の教育方針をわかりやすく説明して、めざす教育について理解してもらうことが重要である。
- 学力をつけるためには、学力の定着状況を的確に把握することが大切である。課題を把握しても課題解決のための方策をたてて実践しなければ力はつかない。先生方のやる気に期待したい。
- 今年の健康教育の取り組みを踏まえ、地域や家庭との連携を更に深めて、より効果的なものにしてほしい。